

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL:0799-25-8550
 FAX:0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

11月22日(土)23日、「きょうざん兵庫支部 明日の障害者福祉をにう職員研修」がふくろうの郷を会場に開催されました。その名の通り明日を担う職員17名が熱心に受講されていました。夜には淡路のおいしい魚料理に舌鼓を打ちながら、懇親を深めたようです。参加された職員のこれからの活躍が期待されます。

上半期を振り返る 第89回理事会

11月24日(土)理事会が開催されました。今回の議題は上半期の事業報告と決算報告です。監事から理事会に先立って行われた監事監査の報告もあつたのですが、理事からは「行政監査に対応できる法に則った監査を求め」との意見もありました。社会福祉法人改革を経て、社会福祉法人に求められているものは何か。考えなければならぬと感じさせられた理事会でした。

(法人事務局 橋詰恭子)

淡路島から車で約2時間半

11月1日、和歌山で初となる聴覚障害者に配慮のある住宅型有料老人ホーム「きのくのくにの手」の開所式が行われ、大矢理事長、入居者自治会長の吉見輝子さん、瀬田相談員が式と祝賀会に参加しました。



▲和歌山の仲間と喜びあう吉見さん(左から3人目)と和歌山聴協の福田会長

吉見輝子さん故郷和歌山にて長年の夢結ぶ 住宅型有料老人ホーム「きのくのくにの手」開所式に参加

かけて施設に到着すると、旧友や知人たちが吉見さんの顔を見つけると駆け寄ってこられ、吉見さんの周りは人だかりになり、人柄を垣間見ることができました。吉見さんは和歌山で初めての聴覚障害者のヘルパー資格を取得され、ろう学校の寮母として働く傍ら、全日本ろうあ連盟の理事や和歌山でのろう福祉向上を目指す活動の礎となり今日の開所式の日を迎えることができたこと、共に活動してきた和歌山県聴覚障害者協会の福田会長と喜びを分かち合いました。

開所式の後に施設内の設備についての説明を受け、最新の設備を妥協せずに納得いくまで協議を重ねて設置された部屋をゆつくり見学させても

旧優性保護法について考える

淡路4団体合同学習会(11月11日)

30回目となる今回は「旧優性保護法について考える」で、午前9月28日に提訴した小林、高木夫妻にも参加してもらい、社福の大矢理事長との対談形式、午後は兵庫裁判の弁護団長である藤原弁護士の講演でした。

藤原弁護士は、裁判の目的について「謝罪や賠償金の支払いだけでなく、差別のない社会を作ること、強制断種により子供をもてなかつた高齢ろう者が安心して老後を生かされる環境、資源を作るために社会に呼びかけることです。みなさん、裁判に関心を寄せ、協力してください」と訴えました。

参加していた南あわじ市の原口議員からは、「9月に市議会に提出されていた強制断種に関する請願は生活に関する項目もあり、関連性が分からず却下されたが、今回の講演で請願の趣旨が理解できた。次回に聴覚障害者の暮らしをよくするための請願が出されたら賛同したい」との発言がありました。(辻)

(相談員 瀬田栄美)

ふくろう物語

石崎 國廣さん

今月号は毎日、施設内を散策しては職員や入居者に冗談を言い楽しませてくださる石崎さんの物語です。

愛媛県今治市で生まれ育った石崎國廣(77歳)さん。松山市内にしかない聾学校に通うために幼い頃から親元を離れ寄宿舎に入らなければならず、聞こえる兄たちはお母さんたちと一緒にのどろろとして自分だけ、という思いがあったそうです。子どものころは海が近いこともあって、毎日のように魚釣りや四国で一歩高い山、石鎚山にもよく登っていたそうです。

奥様と子育て、趣味と仲睦まじく

松山ろう学校中学校卒業後、大阪の木工所に勤めました。その後結婚。奥さまとは、聾学校の先生の紹介で結婚されました。奥様からの告白だった



▲石崎さん(左)仲良しの吉村さんと(右)

そうで「モテていた」と話してくださいました。旅行が好きで、お二人で広島や九州へよく出かけていたとのこと。魚釣りもすきで、アジや秋刀魚、イワシなど釣ってき

ては、家に持って帰り、奥様が料理して下さり食べたそうです、おいしかった!と話してくださいました。子どもは、長男、長女、次男の三人おられます。今はそれぞれ結婚され独立しています。現在、大阪に住まれている息子夫婦と孫様が時折ふくろうの郷に会いに来て下さり、その時はとてもうれしうです。

木材所で定年まで真面目に働いてきた石崎さんですが、奥さまの死後、手話で話せる相手もおらず一人暮らしを続けることが難しくなり、心配した長男からの相談で今年4月に淡路ふくろうの郷に入居されました。

ふくろうの郷での新たな役割

入居当初は、不安な様子もありましたが、手話で皆さんとお話しされているうちに、どんな表情も明るくなり、朝の会や行事などにも参加され、最近では花壇の水やりや草抜きを手伝ってくれています。

会う人ごとに「ここはええわ!大丈夫」と繰り返し話され、「みんなと手話で話せて、夕食後、好きなビールを飲みながら野球を観られる、今のゆったりとした生活を続けていきたい」と希望されています。その気持ちをお大切にし、また大好きだった魚釣りも楽しんでいただきたいと思います。

(生活援助員 井上恵梨香)

ふくろうの郷入居者を描いて

~大槻小百合さんの個展に参加~

11月9日から11日にかけて洲本市民工房で大槻小百合さんの個展が開催され、同時に「私のまわりの愛しき人たち」と題した画集が発行されました。大槻さんは、当法人の大矢理事長の奥さんで、ふくろうの郷開所以来長年にわたり、得意の絵を生かし、書道講座やちぎり絵のボランティアとして協力いただいています。

この間に困難に負けずたくましく生き抜いてこられた高齢者の生き様に触れ、是非絵で表現したいとの思いでたくさん入居者の絵を生き生きと描いてられました。入居者が9日と10日の2日間にわたり、個展を見に行きました。自分を描いた絵



▲入居者の絵をバックに大槻さんと

を見て「これは私!」と誇らしげに指さしたり、亡くなった方や今も一緒に生活している入居者の顔を見て「知ってる、知ってる!」と大喜び。しばしの時を小百合さんと歓談し、嬉しいお出かけの日となりました。(施設長 辻 愛子)

北宿さん

故郷へお墓参り



▲弟さん、娘さんとお墓参り

前田千鶴子さんの京都への墓参りの取り組みを知った娘さんから「是非父も墓参りに連れて行ってほしい」との希望があり、11月3日、北宿一好さん(85歳)のお墓参りが実現しました。高砂までの長距離移動になるため、車いすを背もたれが頭まであるものに変え、安楽な状態がとれるようにしました。

出発当日は朝からニコニコと、「今日はお出かけねん」とうれしそうに話してくださいました。移動中も車窓から見える景色に「天川を越えたら墓や」と話さ

れるなど、故郷への景色を思い出されたようです。墓の管理をしている弟さんから墓に案内される

と、北宿さんは娘さんと一緒に墓の前で手を合わせていました。「せっかくなので、境内には子供連れの家族が遊んでいました。弟さんから、北宿さんも幼頃、ここで遊んでいたとの話があり、北宿さんも懐かしそうにまわりを見回していました。

お墓参りから帰った後、北宿さんは「ありがたい」とか「テレビを見ている」とか自分の気持ちを話さずきり口に出して表すことが増えるなど変化が見られます。これからも故郷への訪問等の取り組みを続けていきたいと思えます。(生活援助員 神代雅司)

感染予防訓練実施



▲12/5 感染症対策委員会として、看護、介護職員で嘔吐による感染予防訓練を行いました。

楽しい時間をともに



▲11/29 安平小学校の4年生の生徒さんが訪問してくれ、玉入れや魚釣りなどで一緒に楽しみました。



▲11/18 大阪箕面聴覚障害者協会の訪問があり、南京玉すだれを披露していただきました。「すごい」と拍手や笑い声があちこちで起きていました!!

藤本紀代さん(78歳)

盲ろうの藤本さんから、「誕生日はみんなにお祝いして欲しい。ケーキや美味しいものを作って食べて喜んで欲しい。」とリクエストがあり、昼食にちらし寿司、茶碗蒸しを作りました。ちらし寿司にはサーモンやマグロのたたきものせ、他の入居者さんもとても喜んでいました。またみんなで食べるため、大きなホールケーキを3つ購入。ろうそくを吹き消し、祝福を受けると「恥ずかしい!」と顔を赤らめていました。ユニットの入居者から「おめでとう! 豪華なご飯も食べられて嬉しい。ありがとう。」と手や身体に触れて話しかけられている藤本さんは「喜ぶ」では言い表せないほど終始笑顔で、この時間を持てたことが一番の誕生日プレゼントだったのだらうと、私も嬉しく思いました。



(生活援助員 川満幸子)

手作り料理やケーキでお祝い!



柴野つや子さん(94歳)

山ユニットの入居者と一緒にケーキを作って、お誕生日のお祝いをしました。他の入居者からの「おめでとう」のお祝いの言葉に照れながら、ろうそくの火を吹き消し、「今日のケーキは美味しいわ、ほんまにありがとう」と喜ばれていました。(生活援助員 東原 裕己)



便利な暮らしに求められる支援の在り方

**淡路聴覚障害者
センター 便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

ひと昔前と比べると私たちの暮らしの中には色々な物があふれ便利な世の中となりました。聴覚障害者の方々にとっても、通信手段がどんどん改善されています。そんな中、今月号では通信手段に関する通訳依頼の増加をとりあげます。

「買う」 だけではない

いくつかある通信手段の中でも身近なものといえば、パソコンや携帯電話です。例えばパソコンを購入して、インターネットで情報を得ようとなれば、プロバイダ契

約、Wifiの環境など、様々な選択や知識が必要となつてきます。それに伴い、料金設定や支払いなど、これまで必要なかったお金も必要となったり、通訳者も理解をして通訳しなければ、食い違いや混乱を招くおそれがあります。



支払い方法 あれこれ

スマートフォンに関しては、最新の機種では10万以上もする物もあります。お店では「分割で、無理なくお支払できますよ」と勧められます。月々の支払いはそれほど高くなくても、数年後を考えて、支払い方法に無理はないか、年金生活をされている方なら、今後も充分支払っていくのかなど具体的に確認しながら契約を進めていく必要があります。



通訳者として

生活が便利になり、暮らしやすくなるのは良いのですが、環境整備や契約等、通訳者としても知識を持つておかなければなりません。今後の活動に活かせるような支援方法を学ぶ機会を持ちたいと思います。

(楠本 恵利子)



盲ろう者の暮らしに触れて 手話奉仕員養成講座

11月17日に、手話奉仕員養成講座・集中講座を開催しました。盲ろう者のコミュニケーション方法や生活について、体験もまじえた講義を受けました。

今後の通訳活動に活かして

登録通訳者技術研修

洲本市健康福祉館3階

11月17日、講師に手話通訳士の平井裕子氏をお招きし、登録手話通訳者の読取通訳の技術研修を行いました。聞きやすい日本語を選択することを意識して、その場に合わせた語彙を選択することが大事とアドバイスを受けました。「研修を受ける

ことで自己研鑽し、積み重ね、日頃の通訳活動を振り返ることが大事。また参加したい」と参加された高見恵美子さんは感想を述べられました。

(楠本 恵利子)



兵庫盲ろう者友の会・理事の奥井 大氏より『盲ろう者とは』というテーマで講演いただいた後、実際に受講生から奥井氏へ、触手話で自己紹介してもらいました。「盲ろうの方の状況に合わせたコミュニケーション方法があることがわかった」「介助員がもっと増えると、盲ろう者の方の毎日の生活が、今より過ごしやすくなるように思った」など、

初めて知った盲ろう者の暮らしに、色々感想をもたれていました。(高木 恵理)



触手話で自己紹介をする受講生



中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター



☎656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

11月28日(水)午後2時15分
から、「デイサービスセンター
桜が丘」・「就労継続B型事業
所おのころの家」合同で火災
避難訓練を実施しました。調
理室にある無線式住宅用火災
警報器のテストボタンを10
秒長押ししました。「ピッ」と
鳴ったら警報音が「ピー、ピ
ー、ピー 火事です」と鳴るは
ず。1回で反応せず、冷や汗か
きながら再度ボタンを押した
らやつとストロボライトが反
応しました。

職員が「火事だ」と気づき、
皆さんに知らせます。聞いた
支援員が消火器をもって駆け
付けて、初期消火を試みたが、
消せないと判断し、消防署へ
連絡、避難しました。

利用者たちは職員の誘導で
窓外のピザ窯のところに避難
しました。職員の点呼で無事
を確認しました。午後2時28
分、避難訓練が無事終了しま
した。

(防災担当 橋詰一則)

秋のレクリエーションしました

11月19日、午後からのレク
レーションの時間に、赤青チ
ームに別れて、豆つかみド
ーナツ食べ競争 缶積み競争シ
ーツを使った玉入れの4種目
を行いました。シーツを使っ
た玉入れでは、広げたシーツ
に玉を入れる方とシーツをバ
タバタと蹴らして玉を出す方
に分かれ最後まで残った玉の数を
競いました。ドーナツ食べ競
争では、入れ歯が外れそうに
なりながら、勝負されてまし
た。皆さんからの応援の声も
あり、白熱したレクリエショ
ンの時間を過ごされました。

(デイサービス 竹内)



▲どれだけ高く積めるかヒヤヒヤ
相手の高さを睨みながらの缶積み競争

ろう重複障害者・高齢聴覚障害者自身がどう生きたいか、、、を大切に。

10月20日(土)～21日(日)、東京学芸大学
で「第22回全聴福研」第5分科会「地域生活を考
える」の第2分科会「重複障害者の暮らしを地域で支
える」に参加しました。

「SSTの実践」のレポート発表はいこいの村栗の
木寮の職員の発表でした。SST(ソーシャル・スキ
ルズ・トレーニング)とは、「社会生活機能訓練」な
ど呼ばれることがあります。社会生活の中でうまく人
と関わり、よりよい人間関係をつくる技能を身に付け
ることを 目的に行われている練習方法です。

「SST、カウンセリング、累犯への対応」という
キーワードでした。実践方法として専門的な知識や経
験があるわけではなく、各自が専門書を購入し、研究
しながら取り組みをしたという例でした。

『自分以外の人の気持ちを考える(想像する)』とい
う事はとても難しいことだと実感していることを聞
きました。相手に対する気持ちとか相手の気持ちを考
えるという場面ではなかなか本音がだされないよ
うです。

進め方のルールとして「あいさつする、自己紹介、
時間を守る、他の人には話さない、批判しない」など
が紹介されました。例えば、罪を犯してしまった障害
者の方がいますが、どうしてそのような行為をして
しまったのか、これから自身の人生をどこでどのよ
うに過ごしていきたいかなどの事例に関して支援員
として役割が考えられていました。来年も是非、支援
員の力量を磨くために「全聴福研」に参加して勉強し
たいと思いました。

(おのころの家管理者 橋詰 一則)

神戸事業所 安心して暮らせる
福祉施設を!!

共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デーサービセンター

〒652-0897 兵庫東神戸市兵庫区駅南通5-4 西高架下16号

TEL & FAX ... 〇七八・五七九〇七五五

**24回を教えた神戸施設建設
推進委員会 活動を振り返る**

27年4月の学習会を皮切りに、本格的にスタートした建設推進委員会も、この12月で24回目を迎えます。

**■ハンドサインコンサー
トの成功に繋がった**

「卒業」スタートライン」の各地域での映画上映会に始まり、ろう者初の薬剤師早瀬久美氏の講演会、いじめ問題をテーマとしたアニメ映画「聲の形」の上映会、国際手話言語記念デーに因んだイベント「沈黙の50年」を実施。来年の年明け2月10日には音楽に手話を取り入れた「ハンドサイン」コンサートの予定と矢継ぎ早に、イベントを展開しています。



場所：垂水勤労市民センター
申込みは神戸ろうあ協会へ
TEL 078-371-3071
FAX 078-371-3052

**■全地域が目標額達成へ
総力を**

同時に各地域では街頭募金やバザー、学習会等を計画し、地域の目標額達成に向け頑張っています。また、プレート募金も100を超え、まだまだ増える勢いです。

地元神戸では毎月第一金曜日の夜「ハッスル神戸」の会議が開かれ、毎回、各地域の活動報告を兼ねて情報交換しています。

目標1億円の募金も、9月



▲長田区で歩行者に募金を呼びかけるハッスル神戸のみなさん

**神戸施設建設募金
目標 1億円!!**

2018.11.29現在 募金合計額
53,468,516円
(プレート募金 104人)
目標1億円まで、あと
46,531,484円

(推進委員 眞木崇江)

に5,000万円を突破しました。夏の酷暑や大雨、台風にも負けず、息の途絶えることのない全地域の地道

な活動が、必ず、聴覚障害者福祉施設建設の悲願の達成に繋がるものと確信します。なんとしても建設費(社会福祉施設整備)の国庫補助が決定され一日も早い着工につながるよう更に頑張りたいものです。

12月・1月 ふくろうの暮らし

- 12/18 (火) しめ縄作り・もちつき・来年の漢字
- 12/19 (水) 入居者自治会懇談会・ふくろう喫茶
ふくろう大学書道講座
- 12/20 (木) 福山市「輛の津ミュージアム」訪問
- 12/21 (金) おのころ屋パン販売
ふくろう大学料理講座
- 12/29 (土) 地域交流会 門松作り・しめ縄飾り
- 12/31 (月) 年越しそば
- 1/1 (火) 新年互礼会
- 1/2・3 (水・木) 初詣
- 1/6 (日) 淡路聴覚障害者協会新年大会参加
- 1/7 (月) 七草粥
- 1/8 (火) 誕生日会
ふくろう大学書道講座 書き初め
- 1/15 (火) どんど焼き
- 1/19 (土) 地域交流会手話講座



職員募集

あなたも一緒に働きませんか



- 特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷
介護(常勤・夜勤のできる方歓迎)
調理(常勤・パート)
夜勤専門員
- 就労継続B型支援事業所おのころの家
生活支援員(常勤・パート)

通勤手当・住宅手当・扶養手当・各種資格手当・退職金制度・賞与年3.5か月・各種キャリアアップ制度あり
問合せ先
(社福) ひょうご聴覚障害者福祉事業協会事務局 橋詰
TEL 0799-25-8550 FAX 0799-25-8551

ふくろうの郷見学・研修予定

12月~2月末まで見学については入居者への感染症等の影響を考慮し、原則お受けしていません。